

事業計画書

(令和2年度)

社会福祉法人 博愛会

社会福祉法人博愛会(以下「博愛会」)は、利用者の皆様に真の自立に向けたケアを提供し、利用者の家族の皆様や箕蚊屋地域に「笑顔と安心」の輪を広げるため、次のとおり計画し、行動します。

記

1 法人の経営理念

利用者、家族、地域に「笑顔と安心」の輪を広げます。

2 法人の基本理念

(1) 利用者の「笑顔と安心」のために

利用者一人ひとりを個人として尊重し、利用者の心身の容態に即した、より質の高いケアの実現をめざします。

そのために、

○ ケアに関する知識と技能の研鑽に、不断の努力を重ねます。

(2) 職員の「笑顔と安心」のために

職員一人ひとりを個人として尊重し、安心して仕事に専念できる職場環境を整えます。

そのために、

○ 職員の意見や提案が自由闊達に行える環境づくりに取り組みます。

○ 能力と向上心のある職員には、能力開発や昇進の機会などを平等に創ります。

○ 公平性、透明性、納得性に配慮した人事評価制度を確立します。

(3) 地域に「笑顔と安心」の輪を広げるために

地域社会の一員として社会福祉事業等を営み、地域社会に貢献します。

そのために、

○ 法人が所有する施設を地域社会の利用に供するとともに、地域社会の活動に積極的に参画します。

3 経営方針

ケアの質の充実、人材マネジメントの機能強化、経営基盤の安定化の3つを経営方針とし、社会福祉法人として、また地域の一員として、その責務を全うします。

(1) ケアの質の充実

ケアのあり方については、その人がその人らしく自立した日常生活を営めるように、日々、変化する心身の状態に合わせた支援できているかを検証

します。課題が残る場合は、必要に応じて対策会議を開催したり、外部有識者の専門的な意見を取り入れたりして、その解消に努めます。

ケアの質については、職員自身が培った知識や技術を介護技術向上委員会等で計画的に検証したり、外部研修で習得した専門的な知識、技術を効率的に伝達するための研修会を適宜、開催したりして、その向上に努めます。

また、研修プログラムは、技能習得レベルに合わせるなど適宜、見直し教育体制の充実を図ります。

(2) 人材マネジメントの機能強化

ア 人事制度の適正な運用

職員の確かなスキルと豊かな人間性を育みながら、組織としての持続可能性を高めるため、公平、公正な人事評価や能力に応じた給与の等級設定、報酬体系等を有機的に連携するなどして、人事制度を充実します。

イ 人材の確保と育成

職員の採用に当たっては、資格の有無や経験の期間に関わらず門戸を開くとともに、経済的負担能力の低い者には修学支援金貸与規程等を適用するなどして、良質な人材の確保と育成に努めます。

(3) 経営基盤の安定化

ア 高齢福祉部門

限られた財源で、より質の高いケアを効率的に提供するため、事業計画の適切な進捗管理に努め、適正な事業運営と財源確保を図ります。

計画通り進捗しない事業所においては、厳正な管理の下、適切な人材配置に配慮しながら速やかな改善に努め、事業の健全化を図ります。

イ 障がい福祉部門

障がい福祉サービスのうち放課後等デイサービス、児童発達支援事業については、専門的有資格者を正職員に登用するなどして、質の高い支援を提供します。

また、就労支援事業については、多くの利用者に工賃、賃金を将来にわたって安定的に支払えるようにするため、既存事業の効率化を図るとともに、新規作業への着手を模索します。

4 事業計画

(1) 計画の内容

3で掲げた経営方針を実現するため、引き続き、事業所ごとに「スローガン」「重要経営指標」及び「年間スケジュール」を策定します。また、当該計画の進捗状況を「見える化」するため、数値化した重要経営指標、基本方針、重点具体策、実施項目を四半期ごとに記載します。

(2) 計画の実行

計画を着実に実行し、成果を上げるためには、職員一人ひとりに「どんな課題に、何のために、どのように取組むか」の周知を徹底し、法人の理念を浸透させていくことが重要です。このため、職員及び専門委員会が主体的に行動できるようにするため、職責に応じて分担制を徹底するなどして業務の効率化を図ります。

(3) 計画の進捗管理

担当部課長等は、担当職員に計画の実施状況をマネジメントさせたいうえで適宜、報告・連絡・相談を受け、適切なフォローを行います。また、各期の終了後及び人事考課制度の中間面接時等において、計画の進捗状況を適切に確認します。

なお、計画を効率的に実践していく過程の中で計画の変更が止むを得ない場合等においては、適宜、当該計画を修正します。

事業計画策定の基本的な考え方（令和2年度）

我々博愛会は、人間関係の希薄化が進展するなどして人々の暮らしや地域の在り方が多様化する中で、公的な福祉だけに頼るのではなく、地域に暮らす人々が共に支えあう社会にしていこうとする、いわゆる地域共生社会の実現に向けて、箕蚊屋地域の福祉の拠点としてその一役を担うため、次の考え方に基づいて行動します。

記

1 人材の確保

支援の担い手となる現役世代の減少が顕著になり、介護等を支える人的基盤の確保が困難になる中、安定的に事業を運営するためには、職員の離職防止は喫緊の課題です。

鳥取県では、2025年の要介護者数は、2020年対比で3,398人（9.3%増）となり、介護事業所に勤める職員は更に1,841人が不足する見込みです。一方、15歳から64歳の人口は、17,450人程度減少する見込みです。

離職率の高い理由は、種々の調査によると、賃金、労働時間をはじめとする待遇の低さ、職場の人間関係、人事評価の妥当性の低さ、キャリアアップが望めないことなどで、職員の確保に当たっては今後、価値観の多様性にも配慮していく必要があります。

特に、若年層は「プライベートも仕事も充実させたい」と考える傾向にあることから、私生活の側面にも考慮しながら、職場を働く場として選んでもらい、働き続けてもらえる環境づくりに留意しなければなりません。

また、日々の業務の洗い出しや作業効率の見直しを進めるとともに、最新テクノロジーを導入したり、元気高齢者を採用したりして業務の効率化や福利厚生事業の拡充を図りながら、職員の身体的、精神的負担の軽減に努め、楽しく安心して働ける職場に改善します。

2 ケアの質の向上

昨年発足した、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）等の組織も体制が整い、新年度からは、できないことの援助、できることの見守りといったPT・OTの視点から、できることの発見、できるための環境を整備する個別レクリエーション等を効果的、効率的に実践し、真の自立に向けたサービスを提供します。

また、人的制約がある中で質の高いサービスを提供できる環境を整備していくことが必然であることから、介護ロボット、見守りセンサー等テクノロジーを導入したり、元気高齢者による、いわゆる介護助手への取り組みを試みたりして現場の革新やケアの質を更に向上します。

3 財源の確保

我が国の社会保障をめぐる環境は、①口構造の変化（支えられる側と支える側のアンバランス化）、②家族形態の変化（核家族化等による支え手の減少）、③低所得者層の拡大（支えられる側の増大、支える側の体力の減退）、④不安定雇用の拡大（人的資本の不備が招く労働生産性の低下）などにより国の支援がますます必要不可欠な状況ですが、一方、年金、医療、介護、子育ての4分野を賄うための国庫負担は増大を続け、これらを賄う国庫負担を賄うためには、消費税率を20%前後まで引き上げる必要があるともいわれています。

国は現在、介護保険、障害福祉サービス等の制度を安定的に運営するため特定処遇改善加算等の諸施策を実施していますが、限られた財源で将来にわたって持続可能なものとするためには、早晩、報酬体系の見直しを避けて通ることはできないと思慮します。

このため、令和3年度の制度改正に向けて年度内に議論される社会保障審議会等の審議内容を慎重に精査し「笑顔と安心の輪を広げる」ために必要な財源の確保に遺漏の無いよう努めます。

以上述べた、1人材の確保、2ケアの質の向上、3財源の確保の取組みは、社会福祉法人の責務として通底するものであり、これらを有機的に融合し、効率的、効果的な事業運営に努めます。引き続き、博愛会の事業活動にご期待ください。

①令和2年度事業計画（介護課）

I スローガン

100人100通りの生活

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（対前年度比：％） 4月～6月	第2四半期（対前年度比：％） 7月～9月	第3四半期（対前年度比：％） 10月～12月	第4四半期（対前年度比：％） 1月～3月	
1	認知症ケアに係るカンファレンス開催（各通りごと）	目標	4回（各通り1回） 計4回	4回（各通り1回） 計8回	4回（各通り1回） 計12回	4回（各通り1回） 計16回
		実績				
2	入居待機者の毎月3名の確保	目標	3名（毎月）	3名（毎月）	3名（毎月）	3名（毎月）
		実績				

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 個別ケアの質の維持、向上	① 看取り介護の充実 （発表：第4四半期） ② 認知症ケア （事例発表：前期、後期） 担当：認知症実践者・リーダー研修受講者 ③ ケアプランの充実	① 研修会の開催準備 担当：各通り責任者、看取り介護係、専門職 事例対象者をその都度決定する。 ⇒看取り介護係で決定 ⇒決定後は第4四半期の発表会に向けた準備（通年）	① 研修会開催（9月） ⇒博愛苑の看取り介護指針をもとに看取り介護の理解を深める 暑中見舞い送付 （対象）：R1年8月～R2年7月までの期間で看取り介護を実施した入居者ご家族	① 研修会の開催準備 担当：各通り責任者、看取り介護係、専門職 看取り介護を実施したご家族へのアンケート調査 ⇒準備・配布（11月） 回収（12月） （対象）：R1年12月～R2年11月まで期間で看取り介護を実施した入居者ご家族 （内容）：博愛苑での看取り介護を受けて	① 研修会の開催（1月） 研修会の開催 （内容）：事例検討会
		② 要因、対策の決定及び実施、評価 ※各通り、半期ごとに対象入居者を1名選出し実施（通年） ③ ケアプランの理解（モニタリング・評価） ⇒勉強会（6月） 担当：ケアプラン会議 ケアプラン指導（通年） 担当：ケアマネ及びケアプラン会議	② 事例発表（9月） ⇒各通り1事例（4事例） ③ ケアプランの理解（アセスメント） ⇒勉強会（9月） 担当：ケアプラン会議	③ ケアプランの理解（ケアプラン作成方法） ⇒勉強会（12月） 担当：ケアプラン会議	② 事例発表（3月） ⇒各通り1事例（4事例） ③ ケアプランの理解（サービス担当者会議） ⇒勉強会（3月） 担当：ケアプラン会議
	実績				

2	人財育成 (人材の定着)	① スキルアップ ② OJTの育成及び強化 (リーダーの役割の明確化と実施)	計画	① 外部研修の積極的な受講(通年) ・特に、認知症、ユニットリーダー、キャリアパス(階層別)は必ず受講する。 研修発表会の開催(6月)	キャリアパス初任者研修(7月頃) キャリアパス中堅職員研修(8月頃) キャリアパスチームリーダー研修(9月頃) 認知症実践者研修(7月8月頃) ユニットリーダー研修(6月7月頃) 研修発表会の開催(9月)	認知症リーダー研修(10月11月頃) キャリアパス管理職研修(12月頃) 研修発表会の開催(12月)	研修発表会の開催(3月)
				② OJTの指導者対象者の決定(4月) 責任者(リーダー)の勉強会(通年) 新人チェックリストの指導、確認、職員フォローアップ(通年) 職員交流会の開催	職員交流会の開催	職員交流会の開催	職員交流会の開催
			実績				

部門	① 特養	氏名	遠藤優介 渡邊久美子
----	------	----	------------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、平成31年度(令和元年度)事業計画の達成度等を記載してください。</p>	<p>これまでをどのように振り返り、各部署の令和2年度の事業計画を立案したのか、記載してください。</p>
<p>1 看取り介護の充実</p> <p>「博愛苑看取り指針」の見直しを行い、職種ごとの主な役割を明確にし、職員への配布と看取り勉強会で指針についての説明を行い周知した。看取り対応を行った(行っている)入居者の事例をまとめ、3月に発表を行う。家族に対しては、例年通りの看取り介護を実施した家族へアンケートを実施し、回収した内容を基に今後の看取り介護の充実を図る。また、今年度は、入居者全員を対象にどのような看取り介護を希望されるかのアンケートを実施し、個々の望まれる介護の把握を行った。アンケートにより、それぞれの家族の思いを知ることができ、看取り期に限らず日々の個別ケアに活かしていきたい。アンケートを取りにあたり、看取り介護とは何かを理解していない家族がいる事が分かり、家族会と道離介護係斗合同で、家族を対象に博愛苑の看取り介護について勉強会を開催した。勉強会には、以前看取り介護を経験された家族にも来ていただき、家族の立場での体験を話してもらい、勉強会後のアンケートでは、「理解できた」「経験者の話しをよく分かった」等の回答があった。今後も看取り期に入ったから何かをするのではなく、看取り期に入るまでにどのような暮らしを送ってもらうのか、日頃の関わりの重要性を意識し、個々の希望に沿った暮らしの継続を図っていく。</p>	<p>令和2年度は1</p> <p>1 個別ケアの質の維持、向上</p> <p>2.人財育成(人材の定着)を基本方針として取り組んでいく。</p> <p>1.個別ケアの質の維持、向上については①看取りケアの充実②認知症ケア③ケアプランの充実の3点を重点具体策とする。①看取りケアの充実については、質の高い看取り介護が行えるように、指針に沿った勉強会、事例検討等を行う。②認知症ケアについては、半期ごとに対象者を決定し、要因の分析、ケアの方法の検討と実践、評価をチームで取り組んでいく。③ケアプランの充実については、アセスメント以外にも、モニタリング、ケアプラン作成、サービス担当者会議についての勉強会を開催し、職員の理解を深めていく。</p> <p>2.人財育成(人材定着)については、①スキルアップ②OJTの育成及び強化(リーダーの役割の明確化と実施)の2点を実施する。①スキルアップについては、外部研修の積極的な受講を促す。特に認知症研修やユニットケア研修は、個別ケアの質の向上にも共通する研修となるため、希望者を募る以外に、所属長より職員に声掛けを行い受講を促す。受講後は、研修発表会を開催し、職員間で研修内容を共有する。OJTの行く市営強化については、現責任者(リーダー)と今後リーダーになる職員を対象に勉強会を開催する。新人職員に対しては、チェックリストを活用し、指導、確認を行う。4半期ごとに職員交流会を開催し、職員間の親睦、連携を図る。</p>

<p>2. 生活の質の改善を図る（個別ケアの強化）</p> <p>24 時間シートの勉強会を実施し、ケアプラン見直し月（3 か月、看取り介護の方は毎月）に見直しを行い家族に送付している。今後は、ユニット毎に 24 時間シートの一覧化を行う。各通り毎のケアマネージャーの配置は、今年度 2 名の介護職員が担当ユニットのケアマネ業務を行うようになり、現在 4 名でケアマネ業務を行っている。アセスメントの理解を深めるため、職員へのアセスメント勉強会も開催したが、職員によって解決すべき課題（ニーズ）を導き出すこと、目標の設定に差がみられる。今後も勉強会を行い、アセスメント力を向上させる。外出については、今年度は複数で出かける事に加え、個別の外出も増えた。自宅へ一時帰宅や墓参り、故郷の散策家族も同行してもらい喜んでもらった。今後も本人、家族から情報収集し外出支援に力を入れていきたい。</p>	
---	--

<p>その他</p>

②令和2年度 事業計画（医務）

I スローガン

介護との連携強化

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	誤薬防止	目標	誤薬 0	誤薬 0	誤薬 0
		実績			
2	マニュアルの追加と見直し	目標	月/5件	月/5件	月/5件
		実績			

III 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1		誤薬事故防止	計画	① 誤薬事故0件		
			実績			
2	専門職の役割を発揮し介護と協働する。	医療業務の統一	計画	① 業務マニュアルの追加と見直し 月/5件 ② 勉強会の開催 3月/1回		
			実績			
3		ユニット会に参加する	計画	① ユニットの方針を知り医務として協働する。	②	
			実績			
4		個々に合った口腔ケアの徹底と最期まで食べることへのかわりを持つ	計画	① 利用者様の定期的な口腔内チェックを行う。	②	①
			実績			
5			計画	①	①	①
			実績			

部門	② 医務 部	氏名	金澤 直江
----	--------	----	-------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、平成31年度(令和元年度)事業計画の達成度等を記載してください。</p> <p>1 専門職の役割を發揮し介護と協働する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日々の健康管理と体調変化に素早く対応するユニット担当看護師は介護と情報共有し、異常時には囑託医に報告し早期対応に努め、受診及び入院の期間短縮に努めた。 ● 確実な医療業務の実施 ヒヤリは5件以下で目標達成できた。 思い込みによる誤薬が1件あり確認行動とダブルチェックの徹底を行った。 ● ユニットケアの充実を図る。 ユニット会開催率(91→78→73%)・参加率(54→54→45%)が徐々に低下し情報の共有が十分に行えなかった。できるだけ事前にユニット会の開催日を察知し、参加する。参加できない場合は気づいたことなど文面での参加に努めユニット会に関心を持つ。 ● 退所者のケアの振り返りを行い今後の終末期ケアに生かす。 今期終末期の入所者様は、看取り会議後から亡くなるまでの期間に、ご家族様が付き添われ看取りの受け入れができたご家族様もあった。今後も主治医のインフォームドコンセントを適切な時に持ち、ご家族様が看取りを受け入れられ悔いのないよう配慮する。入居生活の延長線上にある看取りを充実させるためには、日々の介護を充実させていく必要がある。 ● 安全安楽な専門的ケアの提供 理学療法士は介護士に入居者様の個別ケアの指導を行い、専門分野の勉強会を開催し介護のレベルアップを図った。さらに介護コンテスト出場者の個別指導も行った。 ● 個々に合った口腔ケアの徹底と最期まで食べ 	<p>これまでをどのように振り返り、各部署の令和2年度の事業計画を立案したのか、記載してください。</p> <p>1 専門職の役割を發揮し介護と協働する。 今まで通り介護と連携を図り利用者の健康管理を行い、異常の早期発見・早期治療に努める。 医務として誤薬防止に努め、さらに業務の統一と、マニュアルの徹底を図るため、次年度はマニュアルの作成見直しを行う。看護師として疾患や症状の理解は異常の早期発見につながる為、看護のレベルアップを目標に勉強会の開催を行う。</p> <p>ユニット会への参加はユニットケアのための情報収集と介護との協働に欠かせないため、次年度も継続する。</p> <p>今後のご家族様には、日ごろの状態をご説明し円滑なコミュニケーションを図りながら良好な関係性を構築する。看取りケアはご家族様の受け入れから始まる為、多職種との連携を図りながら、ご利用者様・ご家族様の満足のいく看取りが提供できるよう努める。</p> <p>次年度から理学療法士は別組織となるが、利用者様の身体的機能の維持・拘縮予防等に向け協働を続けていく。</p> <p>歯科衛生士と共に二次感染を予防し、口腔に関する</p>

<p>ることへの関りを持つ。</p> <p>歯科衛生士はターミナル期であっても口からの楽しみを最期まで持てるように口腔ケアに関わった。さらに多職種と連携し歯牙のぐらつき等を発見し早期治療に繋げ事故防止に努めた。</p> <p>ユニット会を利用し口腔ケアの勉強会も開催した。</p>	<p>事故防止に努める。</p> <p>最期の時まで口から食べることへ関わり、口腔機能の維持に努める。</p>

その他

③令和2年度 デイサービス事業計画書

I スローガン

自立支援を支えるデイサービスへ

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)	
		対目標値(%)	対目標値(%)	対目標値(%)	対目標値(%)	
1	月間稼働率80%以上を維持 (日曜営業を除く)	目標数値(%)	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
		実績	(対目標比:%)	(対目標比:%)	(対目標比:%)	(対目標比:%)
2	経営の安定化 年間収入 106,000千円	目標数値(円)	26,500,000	27,500,000	26,500,000	25,500,000
		実績	(対目標比:%)	(対目標比:%)	(対目標比:%)	(対目標比:%)
3	リスクマネジメント体制の強化 ヒヤリハットシートの活用	目標数値(件)	15件	15件	15件	15件
		実績	(対目標比:%)	(対目標比:%)	(対目標比:%)	(対目標比:%)

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)	
1 ケアの質向上	①自立支援の構築 ②認知症に対する理解を深めケアを実施 ③総合事業対象者への取り組み強化 ④リスクマネジメントの実施	計画	①デイサービスにおける自立支援達成に向けての行動指針5か条を運用する。 ②作業療法を取り入れ、在宅生活の継続とQOL向上をはかる。 ③認知症ケアセンター方式の書式を活用し、利用者情報をまとめる。 ④フレイル予防に向けた取組の実施。 ⑤記録に対する理解を深める。	①デイサービスにおける自立支援達成に向けての行動指針5か条を運用する。 ②作業療法を取り入れ、在宅生活の継続とQOL向上をはかる。 ③認知症ケアセンター方式でまとめた利用者情報を基に個別支援について検討を行う。 ④フレイル予防に向けた取組の実施。 ⑤個別ケア記録に利用者の日々の様子を詳しく記載する。	①デイサービスにおける自立支援達成に向けての行動指針5か条を運用する。 ②作業療法を取り入れ、在宅生活の継続とQOL向上をはかる。 ③認知症ケアセンター方式の利用者情報を基に個別支援を行う。 ④フレイル予防に向けた取組の実施。 ⑤個別ケア記録に利用者の日々の様子を詳しく記載する。	① 令和2年度の振り返りと課題抽出。 ② 令和3年度に向けての目標等検証。
		実績				
2 職場環境の整備	①生産性向上の取り組み ②医療連携の強化	計画	①介護サービスにおける生産性向上ガイドラインに沿って業務の効率化を図る。	①介護サービスにおける生産性向上ガイドラインに沿って業務の効率化を図る。	①介護サービスにおける生産性向上ガイドラインに沿って業務の効率化を図る。	① 令和2年度の振り返りと課題抽出。 ② 令和3年度に向けての目標等検証。

				<ul style="list-style-type: none"> ② ICT・ロボット・AI など福祉機器・用具を積極的に導入する。 ③ 医療的ケア及び急変時対応の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ICT・ロボット・AI など福祉機器・用具を積極的に導入する。 ③ 医療的ケア及び急変時対応の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ICT・ロボット・AI など福祉機器・用具を積極的に活用する。 ③ 医療的ケア及び急変時対応の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度の振り返りと課題抽出。 ② 令和3年度に向けての目標等検証。
			実績				
3	効果的な広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ① SNS等で生活情報を発信 ② 居宅支援事業所へ訪問 	計画	<ul style="list-style-type: none"> ① SNSでデイサービスのイベント告知や行事の様子を適宜UPする。 ② 四半期ごとに利用者の感謝の声を集めた「できごとシート」を発行し家族へ配布 ③ 毎月の居宅訪問を継続させる。 ④ ボランティアの受け入れ人数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ① SNSでデイサービスのイベント告知や行事の様子を適宜UPする。 ② 四半期ごとの利用者の感謝の声を集めた「できごとシート」を発行し家族へ配布 ③ 毎月の居宅訪問を継続させる。 ④ ボランティアの受け入れ人数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ① SNSでデイサービスのイベント告知や行事の様子を適宜UPする。 ② 四半期ごとの利用者の感謝の声を集めた「できごとシート」を発行し家族へ配布 ③ 毎月の居宅訪問を継続させる。 ④ ボランティアの受け入れ人数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度の振り返りと課題抽出。 ② 令和3年度に向けての目標等検証。
			実績				

部門	③ 高齢福祉部 デイサービス	氏名	八幡 孝明
----	----------------	----	-------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、平成31年度(令和元年度)事業計画の達成度等を記載してください。</p>	<p>これまでをどのように振り返り、各部署の令和2年度事業計画を立案したのか、記載してください。</p>
<p>1 収益アップ</p> <p>効率的な渉外活動の実施にむけ、毎月2回以上居宅訪問を継続しました。訪問時にはデイ通信や利用状況報告書を持参し、デイサービスの日常、利用者個人の情報、利用空き状況など細かな情報をケアマネジャーに提供することで紹介率が上がり、新規利用者増に繋がりました。</p> <p>また、効果的な広報活動の実施にむけ、SNSでの情報発信に力を入れました。ブログ更新は週1回以上を継続。また幅広くデイサービスの様子を知ってもらえるようデイサービスでFacebookアカウントを作成。友達登録者数増やしブログと連動させ閲覧者数が増えました。</p> <p>加算取得について、今年度の個別機能訓練加算I算定に向け、リハビリ業務及び体制の組織化を図りました。部署間で協力がとれるような業務体制を構築し、時間外の削減と業務の効率化を図れるよう職員配置の見直し、業務の見直し等を行いました。また、これまで理学療法のみ実施していたリハビリを、作業療法を取り入れることで日常生活の中でリハビリが行えるよう環境を整え、より在宅生活に特化させたリハビリに実施に取り組んでいます。</p>	<p>31年度の反省を踏まえ令和2年度事業計画では利用者が継続したいと思う事業所にするための取り組みを行います。ケアの質向上に向けて①自立支援の構築②認知症に対する理解を深めケアを実施③総合事業対象者への取り組み強化④リスクマネジメントの実施。以上の取り組みで利用稼働率を80%以上維持していきます。</p> <p>また、介護者の負担軽減を目的に職場環境の整備として①生産性向上の取り組み②医療連携の強化を行います。生産性向上ではICT・ロボット・AIなど福祉機器・用具を積極的に導入し活用することで身体面だけではなく、精神面での負担軽減に繋がります。</p> <p>広報活動に関しては、これまで同様SNSを活用し幅広く情報発信をするとともに、関係居宅介護事業所への定期的な訪問(顔の見える関係づくり)を継続し、信頼される事業所の構築を続けていきます。</p>

<p>2 自立支援</p> <p>行動指針 10 か条の効果的な活用に向け、PDCA サイクルを取り入れました。これまで 10 か条に対し評価点を付けるのみでしたが、10 か条どれか 1 つ以上に毎月個別目標を立て、月末に成果と評価を記入するよう変更しました。</p> <p>目標設定→成果→評価→見直し→目標設定を繰り返し行うことで自ら考え、行動するように働きかけ未達成を理由に目標が変わらない職員もあり、具体的に日々のケアを振り返り、問題点、改善点を探し、目標を変化させるよう指導を行い取り組み継続しています。</p> <p>利用者自身の活動性向上に向けて、HAK の獲得と消費をまず職員主体で進めるよう取り組みました。食事の配膳を利用者でも行えるようにカートを準備し職員と一緒にすることで、徐々に利用者から率先してカートを使い配膳のお手伝いをしてくださるようになりました。また、作業療法を取り入れることで作業療法士を中心に生活の中で本人のできていることに着目したプログラムを立て取り組む。</p> <p>支援に対する職員意識の改革が課題でありましたが、キャリアパス研修や認知症ケアリーダー研修といったレベルの高い研修へ参加することで自己研鑽に繋げることができました。</p>	

その他

I スローガン

入居者ひとりひとりが役割を持ち、生活を送る

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	稼働率の維持（毎月99%以上）	目標	99%以上	99%以上	99%以上	
		実績	%（空床：日間） （対目標比：%）	%（空床：日間） （対目標比：%）	%（空床：日間） （対目標比：%）	%（空床：日間） （対目標比：%）
2	事故発件数の減少（対前年度比-5%）	目標	前年度-5%	前年度-8%	前年度-12%	前年度-15%
		実績	% （対目標比：ポイント）	% （対目標比：ポイント）	% （対目標比：ポイント）	% （対目標比：%）

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	経営基盤の 確立 ① 経営状況の安定化 （空床による減産を防ぐ） ② サービス内容の向上 ③ リスクマネジメントの 実践	計画	① 昨年度収支状況、今年度予算内容を確認する。 ② 入所申し込み時の面談を定期的に実施し、入所判定会議を開催する。（1回/2月） ③ 認知症ケア加算の取得を開始する ④ 入居者ご家族に、グループホーム利用に関するアンケートを実施する。 ⑤ 看取り、認知症の勉強会を実施する。 ⑥ 毎月1回危険予知トレーニングを実施する。 ⑦ 他グループホームとの交流を開始する。	① 予算の執行状況を確認する。 ② 入所申し込み時の面談を定期的に実施し、入所判定会議を開催する。（1回/2月） ③ アンケート結果を分析し、問題点に対しての具体的対策を検討し実践する。 ④ 看取り、認知症の勉強会を実施する。 ⑤ 毎月1回危険予知トレーニングを実施する。 ⑥ 認知症実践者研修・認知症対応型サービス事業管理者研修会へ参加する。 ⑦ 他グループホームとの交流を行う。	① 予算の執行状況を確認する。 ② 入所申し込み時の面談を定期的に実施し、入所判定会議を開催する。（1回/2月） ③ アンケート結果から出た問題点に対して、具体的対策を実践する。 ④ 看取り、認知症の勉強会を実施する。 ⑤ 毎月1回危険予知トレーニングを実施する。 ⑥ 認知症リーダー研修へ参加する。 ⑦ 他グループホームとの交流を行う。	① 予算使用状況の確認。今年度予算の最終執行と、次年度予算の計上。 ② 入所申し込み時の面談を定期的に実施し、入所判定会議を開催する。（1回/2月） ③ 1年間の具体策実践の振り返りを行う。 ④ 看取り、認知症の勉強会を実施する。 ⑤ 毎月1回危険予知トレーニングを実施する。
		実績				
2	職場環境の 整備 ① マニュアルの整備 ② 業務の効率化を行いワークライフバランスを図る。	計画	① 業務マニュアルの内容更新と整備を開始する。 ② 業務内容を見直し、効率化を図る。	① 業務内容を見直し、効率化を図る。	① 業務内容全体を見直し、効率化を図る。	
		実績				
3	個人の尊厳を大切にす ①グループホーム行動指針の徹底	計画	① グループホーム行動指針の確認と見直しを行う。	① グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。 ② グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。	① グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。	

	る						年間を通しての実践状況を振り返る。
			実績				
4	家族との関係作りの充実	①家族交流会年2回の実施 ②家族への個別支援 ・家族との良好な関係の構築	計画	① 家族交流会を開催する。 ② 個別外出支援を実施する。 ③ みのりの里広報誌を発行する。 (5月)	① 個別外出支援を実施する。 ② みのりの里広報誌を発行する。 (7・9月)	① 家族交流会を開催する。 ② 個別外出支援を実施する。 ③ みのりの里広報誌を発行する。 (11月)	① 個別外出支援を実施する。 ② みのりの里広報誌を発行する。 (1・3月)
			実績				
5	地域との交流	① 地域社会との関係性の強化	計画	① 保育園児との交流を実施する。 ② 公民館活動(サロン・教室)へ参加する。 ③ 運営推進会議の開催。(5月)	① 保育園児との交流を実施する。 ② 地域の夏祭りへ参加する。 ③ 公民館活動(サロン、教室)へ参加する。 ④ 運営推進会議の実施。(7・9月)	① 地域イベント、公民館活動(サロン、教室)へ参加する。 ② 運営推進会議の開催。(11月) ③ よらいや入居者との合同作品展を開催する。	① 公民館活動(サロン、教室)へ参加する。 ② 運営推進会議の開催。(1・3月) ④ 年間の活動を振り返る。
			実績				

部門	④ グループホームみのりの里	氏名	稲澤 邦子
----	----------------	----	-------

(これまで)	(これから)
※各部署が計画した、平成31年度(令和元年度)事業計画の達成度等を記載してください。	これまでをどのように振り返り、各部署の令和2年度の事業計画を立案したのか、記載してください。
<p>1 経営基盤の確立</p> <p>今年度は退所者数が多くあったこともあり、入所者面談と入所判定会議の実施回数が増えた。しかし年度後半は、定期的な面談の実施ができなかった。入居者ご家族へのアンケートを行い、具体的なご意見に対して対策を立てて実践することが出来た。第2四半期からは事業所内での看取り、認知症勉強会を開催し、症例検討会も行いサービス改善に結び付けることが出来た。毎月2回を予定していた危険予知トレーニングは、年度途中より実施回数が達成できなくなり、毎月1回の実施に留まってしまった。事故発生件数は昨年度より減少したが、同じ事故を繰り返すことがあった。グループホーム協会の相互研修に参加し、参考となったことをすぐに実践し、入居者の満足度の向上につなげることが出来た。認知症実践リーダー研修を修了したが、予定より開催期間が遅く、年度内の認知症ケア加算の取得が達成出来なかった。(達成度 80%)</p>	<p>1 経営基盤の確立</p> <p>ベット空床率が減少するように、年間をとおして計画的な面談を実施したい。また、入所申込者獲得のPRのため渉外活動を行う。</p> <p>サービス内容の向上のため、看取りと認知症勉強会を継続し、他事業所とも交流を持ちケア内容を見直す機会を増やしていきたい。事業所内での具体的な内容で危険予知トレーニングを実施し、事故発生率を軽減する。昨年度取得出来なかった認知症ケア加算の取得を開始する。ご家族への満足度アンケート調査を実施し改善策を検討し実践する。</p>
<p>2 職場環境の整備</p> <p>小さなことからではあるが、四半期毎にマニュアルと業務内容の見直しを行い業務の効率化を進めることが出来た。2ユニット間の業務内容の差を見直し、サービスの質の統一を図った。(達成度 90%)</p>	<p>2 職場環境の整備</p> <p>業務マニュアル全てを現状に合わせて更新する。今後も業務の効率化を図り、かつサービスの質の保持と向上も実施していく。記録や会議等で発生する時間外の短縮を図り、ワークライフバランスを図る。</p>

<p>3 個人の尊厳を大切にす グループホームの指針に沿って毎月目標を決めて達成度の振り返りを行った。目標を明確にすることで意識付けをすることが出来た。 (達成度 80%)</p>	<p>3 個人の尊厳を大切にす みのりの里行動指針を作成して3年が経過した。現状を確認し、再度行動指針を見直し改定したい。また入居者個々の生活の質、満足度の向上を目的とした話し合いの場を積極的に持ちたい。</p>
<p>4 家族との関係作りの充実 ご家族を交えての外出を実施し、家族交流会として、入居者様と一緒に夕食の機会も作ることが出来た。ご家族とのコミュニケーションを増やすという地道な関係作りが効果を生んだのか、催し物へのご家族の参加数が増えた。日々の様子をもっとわかるように、みのりの里の広報誌の内容を変更した。(達成度 85%)</p>	<p>4 家族との関係作りの充実 家族単位の個別外出援助や思い出作りを実施していきたい。様々なレクリエーションにもご家族様の参加が増えるように、声かけと情報提供を行う。面会時の積極的な声掛けや随時連絡も引き続き行い、信頼関係の向上を図る。広報誌を通じての活動内容の紹介と報告を実施する。</p>
<p>5 地域との交流 毎月の公民館活動へ、1名ずつではあるが参加した。また県公民館、春日公民館の公民館祭へ出展し、公民館の大掃除にも参加した。春日保育園児とは毎年恒例のさつま芋ほりを行った。2か月に1回、地域住民の方を交えての運営推進会議を開催しご意見をいただいた。併設する事業所のよらいや利用者によるボランティア活動を月に1回行っていただき、また合同の作品展も開催した。 (達成度 90%)</p>	<p>5 地域との交流 公民館活動へは引き続き参加する。公民館祭への出展もしてみのりの里をアピールする。地域での催し物にもっと積極的に参加していききたい。</p>

その他

⑤令和2年度事業計画（地域包括支援センター）

I スローガン

地域包括ケアシステムの構築

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 地域ケア会議の開催（13回/年） （地域ケア推進型：4、地域ケア会議準備会 4、個別課題解決型：2、自立支援型：3）	目標	2回	5回	4回	2回
	実績	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）
2 認知症サポーター養成講座の開催（6回/年） （絵本教室 2、高齢者疑似体験 2、認知症サポーター養成講座 2）	目標	1回	2回	2回	1回
	実績	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）
3 地域との連携（会合等への参加） ・民生委員定例会（8回/年） ・公民館・自治会長会（4回/年） ・在宅福祉員定例会（4回/年）	目標	民生委員定例会（2回/年） 在宅福祉員定例会（4回/年）	民生委員定例会（2回/年） 公民館・自治会長会（2回/年）	公民館・自治会長会（2回/年）	民生委員定例会（4回/年）
	実績	民生委員定例会 回 在宅福祉員定例会 回 （対年間目標比：％）	民生委員定例会 回 公民館・自治会長会 回 （対年間目標比：％）	公民館・自治会長会 回 （対年間目標比：％）	民生委員定例会 回 （対年間目標比：％）
4 実態把握 140件/年	目標	36件	36件	36件	32件
	実績	件 （対目標比：％）	件 （対目標比：％）	件 （対目標比：％）	件 （対目標比：％）
5 介護予防事業促進 請求目標件数 2010件/年	目標	503件	503件	503件	501件
	実績	件 （対目標比：％）	件 （対目標比：％）	件 （対目標比：％）	件 （対目標比：％）
6 認知症予防事業促進 ・DASC 80件 ・タッチパネル実施 80件 ※DASC（認知症スクリーニングのツール）	目標	DASC 20件 タッチパネル 10件	DASC 20件 タッチパネル 10回	DASC 20件 タッチパネル 50回	DASC 20件 タッチパネル 10回
	実績	・DASC 件 （対目標比：％） ・タッチパネル 回 （対目標比：％）	・DASC 件 （対目標比：％） ・タッチパネル 回 （対目標比：％）	・DASC 件 （対目標比：％） ・タッチパネル 回 （対目標比：％）	・DASC 件 （対目標比：％） ・タッチパネル 件 （対目標比：％）
7 地域サポーター一部会の開催 8回/年	目標	2回	2回	2回	2回
	実績	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）
8 包括支援センター内の研修 12回/年	目標	3回	3回	3回	3回
	実績	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）	回 （対目標比：％）

Ⅲ 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
1	権利擁護、自立支援のネットワーク構築を強化し、地域包括ケアシステムを推進する。	<p>① 地域ケア会議開催(年13回) 地域ケア推進型:4、地域ケア会議準備会 4、個別課題解決型:2、自立支援型:3</p> <p>② 地域包括ケアへの社会基盤整備の取組み ・認知症サポーター養成講座等開催(年6回)</p> <p>③ 地域との連携促進 ・民生委員会参加 8回、 ・公民館・自治会長会 4回、 ・在宅福祉員定例会 4回</p> <p>④ 独居・高齢世帯の訪問促進、支援調整 (実態把握、目標140件)</p> <p>⑤ 自立支援に資するケアマネジメントの支援(ケアマネジャー支援、研修会等) ケアマネジャー研修会 7回</p> <p>⑥ サービス事業所の充実に向けた連携 (地域密着型サービスの運営推進会議参加など) グループホームみのりの里・すずかぜ、小規模多機能型居宅介護にじの音(1/2ヵ月)、コムハウス、エレファント(1/月)</p>	<p>① 地域ケア会議開催(2回) 地域ケア準備会 1回 個別課題解決型 1回</p> <p>② 認知症サポーター養成講座(1回)</p> <p>③ 地域組織の定例会参加 ・民生委員定例会 2回 ・在宅福祉員定例会 4回</p> <p>④ 独居・高齢世帯の実態把握 36件(毎月12件)、支援調整、早期介入。</p> <p>⑤ ケアマネジャー研修会開催(2回) 困難ケース支援</p> <p>⑥ 地域密着型サービスの運営推進会議の参加。</p>	<p>① 地域ケア会議開催(5回) 地域ケア会議準備会 2回 地域ケア推進型 2回 自立支援型 1回</p> <p>② 認知症サポーター養成講座(2回)</p> <p>③ 地域組織の定例会参加 ・民生委員定例会 2回 ・公民館・自治会長会 2回</p> <p>④ 独居・高齢世帯訪問実施、実態把握。36件(毎月12件)、支援調整、早期介入。</p> <p>⑤ ケアマネジャー研修開催(1回) 困難ケース支援</p> <p>⑥ 地域密着型サービス運営推進会議の参加。</p>	<p>① 地域ケア会議開催(4回) 地域ケア会議準備会1回 地域ケア推進型 2回 自立支援型 1回</p> <p>② 認知症サポーター養成講座(2回)</p> <p>③ 地域組織定例会参加 公民館・自治会長会 2回</p> <p>④ 独居・高齢世帯訪問実施、実態把握。36件(毎月12件)、支援調整、早期介入。</p> <p>⑤ ケアマネジャー研修開催(2回) 困難ケース支援</p> <p>⑥ 地域密着型サービス運営推進会議の参加。</p>	<p>① 地域ケア会議開催(2回) 個別課題解決型 1回 自立支援型 1回</p> <p>② 認知症サポーター養成講座(1回)</p> <p>③ 地域組織定例会参加 民生委員定例会 4回</p> <p>④ 独居・高齢世帯訪問実施、実態把握。32件(毎月11件)、支援調整、早期介入。</p> <p>⑤ ケアマネジャー研修開催(1回) 困難ケース支援</p> <p>⑥ 地域密着型サービス運営推進会議の参加。 各事項の分析・評価・目標見直し(2月)次年度への反映</p>
			実績			
2	介護予防・日常生活支援総合事業の浸透を図り、介護予防を推進する。	<p>① 介護予防・日常生活支援総合事業の適正な実施 (総合事業マネジメント400件/年、モニタリング・評価等の適時実施、1年目の更新手続き)</p> <p>② 予防給付による指定介護予防支援の適正な実施 (介護予防マネジメント2010件/年、モニタリング</p>	<p>① 事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 1年目の更新手続き。 目標 100件(34件/月)</p> <p>② 指定介護予防マネジメントの訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 502件(168件/月)</p>	<p>① 介護予防・日常生活支援事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議・1年目の更新手続き) 進捗確認(月末) 目標100件(34件/月)</p> <p>② 指定介護予防マネジメントの訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者</p>	<p>① 介護予防・日常生活支援事業総合事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 進捗確認(月末) 目標 100件(34件/月)</p> <p>② 指定介護予防マネジメントの訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者</p>	<p>① 介護予防・日常生活支援事業総合事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 進捗状況確認(月末)。 目標 100件(34件/月) 分析・評価。”</p> <p>② 指定介護予防マネジメントの訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者</p>
			計画			

		<p>・評価等の適時実施)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 80件/年、 タッチパネル 80件/年)</p> <p>④インフォーマルサービス等 社会資源の広報・調整 (地域のサロン・地区講座支 援、介護予防教室の開催、 サポーター部会 8/年、よら いや等介護予防資源の情報 提供、包括だより発行 4/ 年)</p> <p>⑤医療との連携強化 (入院時在宅ケア票送付、主治 医へのケアプランの提供等)</p>		<p>③認知症予防事業の推進 (DASC 20件/3ヵ月、タ ッチパネル 10件/3ヵ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講 座支援介護予防教室・社会資源 の情報提供調整 地域サポーター部会 2回 包括だより発行1回/3ヵ月</p> <p>⑤入院時ケア情報票の送付 主治医へのケアプランの提 供</p>	<p>議) 進捗確認(月末)。 目標 502件(168件/月)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 20件/3ヵ月、タッチパ ネル 10件/3ヵ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講 座支援介護予防教室・社会資源 の情報提供調整。 地域サポーター部会 2回 包括だより発行1/3ヵ月。</p> <p>⑤入院時在宅ケア情報票の送付 主治医へのプランの提供</p>	<p>進捗確認(月末) 目標 502件(168件/月)</p> <p>② 認知症予防事業の推進 (DASC 20件/3ヵ月、タッ チパネル 50件/3ヵ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講 座支援介護予防教室・社会資 源の情報提供調整 地域サポーター部会 2回 包括だより発行1/3ヵ月</p> <p>⑤入院時在宅ケア情報票の送付 主治医へのプランの提供</p>	<p>会議) 進捗状況確認(月末)。 目標 502件(168件/月) 分析・評価。</p> <p>③ 認知症予防事業の推進 (DASC 20件/3ヵ月、タッ チパネル 10件/3ヵ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講 座支援介護予防教室・社会資 源の情報提供調整。 地域サポーター部会 2回 包括だより発行1/3ヵ月 分析・評価。”</p> <p>⑤入院時在宅ケア情報票の送付 主治医へのプランの提供 各事項の分析・評価・見直し (2月中) ※「包括評価」を視野に入れ、業 務内容についての職員間の周知 徹底・共通認識と実践”</p>
	実績						
3	職員のスキル アップ・連携強 化を図る。	<p>① 職員のスキルアップ・連携 強化(包括内外研修、事例 検討会、個人目標作成と振 り返り、包括ミーティング)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検 (内部監査)</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連携 強化 包括内研修3回(1/月・第 1木曜午後) 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝) 個人目標提出と振り返り(毎月 30日)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検 全ケースケアプラン確認</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連携強 化 包括内研修3回(1/月・第1 木曜日午後) 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝) 個人目標提出と振り返り(毎月 30日)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連 携強化 包括内研修3回(1/月・第1 木曜日午後) 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝) 個人目標提出と振り返り(毎 月30日)</p> <p>③ 介護予防マネジメント点検</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連携 強化 包括内研修3回 (1/月・第1木曜日午後) 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝) 個人目標提出と振り返り(毎月 30日)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検</p>	
	実績						

<p>(部門) ⑤ 地域包括支援センター</p>	<p>(担当) 福田 和美 (R2.2.14 現在)</p>
<p>～これまで</p>	<p>これから～</p>
<p>1 担当圏域地域ケア会議の開催。</p> <p>年間 計 18 回開催した。</p> <p>(箕蚊屋地域ケア会議 4 回、準備会 10 回、サロン立上げ検討会 2 回、個別地域ケア会議 2 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箕蚊屋地域ケア会議 (地域ケア推進型会議) : 今年度も 4 地区自治会長会にて参加呼びかけを行い、各自治会長の参加を得て、4 地区毎に開催。4 地区とも、地域の方々を絡め準備会を 2～3 回ずつ開催。(計 10 回) テーマなど地域住民と検討をして決定。平成 19 年度から開催を継続したことで、地域に浸透し、福祉の地域づくりをするうえで、活用される地域から活用される会議になってきた。 ・箕蚊屋地域ケア会議準備会 (10 回) (春日地区 3 回、巖地区 3 回、県地区 2 回、大高地区 2 回) 準備会を開催しての地域ケア会議は、平成 30 年度は 2 地区のみであったが、今年度は 4 地区全てに広げることができた。準備会を持つことで、地域住民の主体性の引き出しにつながり、開会・閉会あいさつを地域住民に担当してもらうことができた。春日地区においては、基調講演の講師を地域の方に担って頂くことができた。 ・サロン立上げ検討会 2 回 (下福万、今在家) 今年度 4 カ所サロンの立上げとなった。 ・個別地域ケア会議 : 支援困難例について開催。 (2 回) (M 様、T 様) (地域住民、行政、医療機関、福祉関係機関、ケアマネージャー (「CM」) 等参加) (達成率 : 225%) 	<p>1 担当圏域地域ケア会議の開催。</p> <p>年間 13 回開催予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箕蚊屋地域ケア会議 : 前年に続き、各自治会長会にて参加呼びかけを行い、自治会長の参加の増加を目指す。従来通り、地区毎に開催。準備会を開催し、テーマを含め検討し、地域住民の主体性を引き出しながら、実情にあった会議を目指し開催する。 (箕蚊屋地域ケア会議 4 回、準備会 4 回) ・個別地域ケア会議 : 支援困難例について適宜開催する。(2 回) ・自立支援型地域ケア会議 : 米子市で取り組む初年度となる。7 包括が持ち回りで、事例提出を行う。(3 回)
<p>2 自立支援に資するケアマネジメントの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CM、サービス事業所支援として連絡会・研修会の開催 : 年 7 回開催。(箕蚊屋包括主催 6 回、7 包括合同 1 回) 	<p>2 自立支援に資するケアマネジメントの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CM 支援としての連絡会・研修会を 6 回開催予定。 (箕蚊屋包括主催研修会 6 回、米子市全体での事例検討会 1 回)

<p>(達成率：100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CM への個別支援(2 例) (T様、T様、U様) <p>(達成率 100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CM への個別困難事例の支援 (3 事例程度)
<p>3 地域包括ケアへの基盤整備の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座開催：6 回 (伯仙小学校 1 回、箕蚊屋小学校 2 回、大高前市場寿会 1 回、前田サロン 1 回、大高やって未来や塾 1 回、加茂中学校・協力 1 回) 地域住民対象で 3 回開催した。(達成率 150%) ・高齢者疑似体験 9 回 (うち 8 回協力) (伯仙小学校、箕蚊屋小学校、就将小学校、福生西小学校、淀江小学校 1 回、車尾小学校、成実小学校、福生東小学校 各 1 回、米子高校 2 回、) <p>(達成率：150%)</p>	<p>3 地域包括ケアへの基盤整備の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座：4 回開催 自治会、職域での開催がより広がるよう広報を行う。(自治会・事業所など) ・高齢者疑似体験 6 回 (箕蚊屋小学校 1 回、伯仙小学校 1 回、その他協力 4 回)
<p>4 地域との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員会等参加 (19～20 時)：8 回参加 ・自治会長会参加 (19 時 30 分～)：4 回参加 (県 2 回、大高 1 回、春日 1 回) ・在宅福祉員へ挨拶・広報：4 回 (大高・春日・巖・県 1/年) ・運営推進会議参加 (5 事業所) GHみのりの里 (5)、小規模多機能型居宅介護 虹の音 (5)、GHすずかぜ (4) 地域密着型デイサービス エレファント運営推進会議参加 (2) ・在宅福祉員へ挨拶・広報：4 地区 (大高・春日・巖・県 1/年) ・公民館祭 4 公民館 (タッチパネル等) 94 人 <p>(達成率：100%)</p>	<p>4 地域との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員会への参加：8 回 ・自治会長会参加 (19 時 30 分～)：4 回参加 ・在宅福祉員へ挨拶・広報：4 地区各 1 回 ・運営推進会議参加 (5 事業所) GHみのりの里、小規模多機能型居宅介護 虹の音、地域密着型デイサービス (各 6 回/年) エレファント運営推進会議参加 (2 回/年) ・在宅福祉員へ挨拶・広報：4 地区 1 回/年 ・公民館祭 4 公民館 (タッチパネル等)。
<p>5 独居高齢世帯中心の訪問促進、支援調整 実態把握：138 件実施予定 (現在 133 件実施) (達成率：96.4%)</p>	<p>5 独居高齢世帯中心の訪問促進、支援調整 実態把握目標：140 件/年</p>
<p>6 介護予防事業の周知・利用拡大につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援・総合事業、ガイナミック、自費運動サービス (運動処よらいや) についてサロンなどで広報。 ・要請に応じサロン、やって未来支援を実施 ・地域サポーター部会開催などサポーター支援 6 回実施 (目標 8 回) (達成率：75%) 	<p>6 介護予防事業の周知・利用拡大につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年に続き、介護予防支援・総合事業、ガイナミック、自費運動サービス (運動処よらいや) についてサロンなどで広報。 ・前年に続きサロン、やって未来や支援を実施 ・地域サポーター部会開催などサポーター支援 9 回。

<p>7 適正な介護予防ケアマネジメントの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント管理表の作成方法を再検討し、モニタリング・評価の確実な実施に取り組んでいる。 ・管理者のチェック・管理を翌月初めに実施。 <p>ケアプラン請求件数 1841 件（1月末現在） （目標：1908 件、達成率：96.5%）</p>	<p>7 適正な介護予防ケアマネジメントの取組み</p> <p>前年に続き取り組みを継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント管理表を活用し、モニタリング・評価の適時実施を徹底する。 ・管理者が引き続きチェックし、管理する。 <p>ケアプラン目標件数 2010 件</p>
<p>8 職員のスキルアップ・連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全介護予防サービス支援計画のチェックを実施。 ・包括研修を毎月予定しているが、実施が遅れている状況。年度末までに実施予定。（現在 6 回実施）（達成率：50%） ・部署内の個人目標作成と振り返りを実施している。 	<p>8 職員のスキルアップ・連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括内会議（1/週）毎木曜日 ・包括内研修（1/月）第 1 木曜日 ・包括支援センターの目標と個人目標を作成し、振り返り会を実施する。（毎月第 1 木曜日）
<p>9 医療との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当ケースなどが入院した際、入院時在宅ケア票を送付している。 ・主治医へのケアプラン提供を行っている。 ・地域ケア会議毎回、全医療機関に案内を行った。 <p>（達成率：100%）</p>	<p>9 医療との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時在宅ケア票送付について前年に続き継続。 ・主治医へのケアプラン提供を継続する。 ・前年に続き医療機関に地域ケア会議の案内をする。
<p>10 認知症予防、早期発見の強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネル 94 件実施（目標 75 件） ・DASC、生活支援アンケート 115 件（目標 55 件）（年度途中より生活支援アンケートに代わり DASC に重点的に取り組むことになる） ・オレンジカフェ支援を実施。（1/月） <p>毎回日替わりの催しを取り入れ開催。1 月開催分には地域からの参加もあった（骨密度、血管年齢測定）</p> <p>（達成率：タッチパネル 125.3%、DASC 209.1%）</p>	<p>10 認知症予防、早期発見の強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネル 100 件/年、DASC 100 件/年。 ・オレンジカフェ支援を実施。 <p>よらいや利用者のほか、地域住民の参加者の増加、ボランティア参加を目指して取り組む。</p>
<p>11 事故防止について。</p> <p>委託ケアプラン関係事故 2 件発生。 交通関係事故 0 件。</p>	<p>11 事故防止について</p> <p>引き続き適正なマネジメント業務に努める。 安全運転を徹底し、事故防止に努める。</p>

⑥令和2年度 事業計画書（ 居宅介護支援事業所 ）

I スローガン

利用者、家族様に笑顔と介護保険情報をお届けし 在宅生活を支援します。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	ケアプラン担当件数 2,100件/年 (35件/職員1名×5名×12か月)	目標	525件 (175件/月×3月)	525件 (175件/月×3月)	525件 (175件/月×3月)	525件 (175件/月×3月)
		実績	件 (対目標比：%)	件 (対目標比：%)	件 (対目標比：%)	件 (対目標比：%)
2	居宅介護支援事業者と合同研修を通じてケアマネジメントの質の向上を図る (5回/年)	目標	1回	2回	1回	1回
		実績	回	回	回	回

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 質の高いケアマネジメントを行う。	<p>① 事業所内の会議、研修を行う。</p> <p>② 外部研修へ積極的に参加する。</p> <p>③ 居宅介護支援事業者と合同の事例検討会・研修会等を行う。</p>	<p>計画</p> <p>① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・居宅包括会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>・「月刊ケアマネジャー」を購読しケアマネジメントの質の向上を図る。</p> <p>②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>③居宅介護支援事業者（新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、</p>	<p>① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・居宅包括会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>・「月刊ケアマネジャー」を購読しケアマネジメントの質の向上を図る。</p> <p>②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>③居宅介護支援事業者（新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、大山リハ</p>	<p>① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・居宅包括会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>・「月刊ケアマネジャー」を購読しケアマネジメントの質の向上を図る。</p> <p>②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>③居宅介護支援事業者（新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、</p>	<p>① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・居宅包括会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。</p> <p>・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>・「月刊ケアマネジャー」を購読しケアマネジメントの質の向上を図る。</p> <p>②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>③居宅介護支援事業者（新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、大山リハ</p>

				大山リハビリテーション病院居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑) 合同の事例検討会・研修会等を行う。 年5回	ビリテーション病院居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑) 合同の事例検討会・研修会等を行う。 年5回	大山リハビリテーション病院居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑) 合同の事例検討会・研修会等を行う。 年5回	ビリテーション病院居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑) 合同の事例検討会・研修会等を行う。 年5回
			実績				
2	給付管理件数を増やす。	<p>①地域、福祉施設、医療機関からの信頼に積極的に応える。</p> <p>② 市の委託業務を適切に処理する。</p> <p>③ 業務改善を行い、効率的に確実な業務を行う。</p> <p>④ 加算項目等を的確に把握し、介護報酬の請求に漏れがないか確認する。</p> <p>⑤ 地域とのつながりを持ち、情報発信していく</p>	計画	<p>① 地域や関係機関との情報交換を行い、相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人35件/月、事業所総数175件/月を目指す</p> <p>② 認定業務の受け入れ提出する</p> <p>③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。</p> <p>④ 請求時に個別の加算項目を確認する。</p> <p>⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。</p>	<p>① 地域や関係機関と情報交換を行い相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人35件/月、事業所総数175件/月を目指す</p> <p>② 認定業務の受け入れ提出する。</p> <p>③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。</p> <p>④ 請求時に個別の加算項目を確認する。</p> <p>⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。</p>	<p>① 地域や関係機関と情報交換を行い、相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人35件/月、事業所総数175件/月を目指す</p> <p>② 認定業務の受け入れ提出する。</p> <p>③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。。</p> <p>④ 請求時に個別の加算項目を確認する。</p> <p>④ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。</p>	<p>① 地域や関係機関と情報交換を行い、相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人35件/月、事業所総数175件/月を目指す</p> <p>② 認定業務の受け入れ提出する。</p> <p>③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。</p> <p>④ 請求時に個別の加算項目を確認する。</p> <p>⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。</p>
			実績				

部門	⑥ 居宅	氏名	井上和昌
----	------	----	------

(これまで)	(これから)
※各部署が計画した、平成 31 年度事業計画の達成度等を記載してください。	これまでをどのように踏まえ、各部署の令和 2 年度の事業計画を立案したのか、記載してください。
<p>1 質の高いケアマネジメント</p> <p>○事業所内の会議、研修を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、居宅会議を開催することでケアマネジメントに関する技術、困難事例、地域における社会資源、利用者の情報などを職員間で共有を図ることができ、事業所として効果的な利用者支援につながった。 ・包括支援センターと困難事例などの情報を共有し、検討することで地域の課題や事例に対して効果的に対応することができた。 ・事例検討会を通して、各職員の気づきや振り返りを行うことができた。 ・職員各自がテーマを決めて勉強会を実施し、職員の自己研鑽への意欲向上や資質の向上が図られた。 ・専門誌を購読することで、最新のケアマネジメント情報や知識、技術の習得、理解をすることができた。 <p>○外部研修への参加</p> <p>外部研修会などに参加し、知識、技術の習得ができた。さらに顔の見える関係づくりを行い、地域のネットワークの構築に役立てられた。関係機関との情報共有ができ、介護支援事業所としての知名度の向上や、個人としての資質の向上が図られ、目標は概ね達成できた。</p> <p>勤務時間外での研修が多いため、時間的に参加が困難な場合が多い。</p> <p>○他居宅介護支援事業所と合同の事例検討会、研修会を行う。</p>	<p>○事業所内の会議、研修の充実</p> <p>居宅職員間で情報の共有を図り、介護支援専門員としての資質の向上を図るとともに利用者家族へ適切なケアマネジメント支援を提供する。業務内容の見直しや統一をすることで効果的な業務運営を行う。</p> <p>包括支援センターとの会議を通じて情報共有を図り、地域の課題や強みを理解し、利用者、家族の支援に役立てる。</p> <p>事例検討会、部署内勉強会などを実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。</p> <p>ケアマネジメントの最新情報誌「月刊ケアマネジャー」を定期購読し、最新の知識や技術を習得する。</p> <p>○内部.外部研修などへの参加</p> <p>内部.外部研修などに参加することで、技術や知識の習得を行う。</p> <p>外部研修に参加することで他事業所との顔の見える関係づくりを行い、地域の他事業所との円滑な連携を図り、ネットワークの構築を行う。</p> <p>介護支援専門員として常に自己研鑽に努めるとともに、研修などに参加することで専門的な知識や技術を習得し、利用者、家族の信頼を得て、利用者のニーズに答えていく。</p> <p>○他居宅事業所との合同の事例検討会、研修会を行う。</p> <p>特定事業所加算算定を継続するために他事業所との合同で研修会などを計画する。</p>

<p>他法人の居宅介護支援事業所と合同で研修会などを実施し、介護支援専門員としての資質の向上が図られ、地域の情報共有が出来た。また、介護支援専門員同士の顔の見える関係づくりをすることができた。</p>	<p>研修会などを通じて、介護支援専門員としての資質の向上を図る。事業所間の連携を密にして地域課題への対応を図っていく。</p>
<p>2 給付管理件数を増やし安定した事業経営を行う。</p> <p>○地域、福祉施設、医療機関からの依頼に積極的に応える。</p> <p>新規利用者 52 名を獲得する。(1 月末現在) 請求件数の達成率は 90.2% (1 月末現在)。</p> <p>○認定調査受諾 受諾件数 86 件 (1 月末現在)</p> <p>○業務改善を行い、効率的に確実な業務を行う。 令和 1 年保険者(米子市)のケアプラン点検を受け、改善報告書の提出を行う。今後も継続して適正な業務運営ができるように、適宜、点検、確認を行う。</p> <p>○加算項目を的確に把握し、請求を行い介護報酬の増益を図る。 請求業務時に加算減算事前設定一覧表を利用して加算項目の把握を行い、介護報酬の増益を行う。 入退院、入退所時の各病院や施設との情報共有を図り、それぞれの加算を獲得することができた。</p> <p>○地域とのつながりを持ち、情報の発信を行う。 地域ケア会議に参加し、地域の現状把握と課題の発見・対応など事例を通して確認することができた。</p>	<p>○地域、福祉施設、医療機関からの依頼に積極的に応える。 病院・施設・他居宅・包括からの依頼に積極的に応え、信頼関係を構築し連携を図ることで利用者獲得を行う。職員一人ひとりが信頼を得るために何ができるか、意識して業務を行う。</p> <p>○委託業務を受託し延滞なく提出する。 認定調査依頼を受諾し、地域貢献を行う。</p> <p>○業務改善を行い効率的な業務を行う。 適宜、業務内容の統一が出来ていない項目があれば取り組みを行い適正な業務運営を行う。業務の見直しや変更点の確認を行い法令順守した適切な業務履行を行う。</p> <p>○加算項目の把握と介護報酬の増益を図る。 老健施設、病院などと情報提供などを行い情報の共有し、利用者ニーズに答え、適切な支援を行うことで入退院連携加算を獲得する。</p> <p>○地域とのつながりを持ち情報発信をしていく。 地域ケア会議などに参加し、地域の現状把握と課題の発見・対応など事例を通して確認する。 困難事例について地域包括支援センターと連携して対応する。</p>
<p>その他</p>	

⑦令和2年度 事業計画書（ ののかや運動処よらいや ）

I スローガン

心も体も、元気で楽しいスローライフ

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	年間平均会員100名を達成（がいなミック及び月会員）	目標	98名	101名	104名	105名
		実績	名 （対目標比： %）	名 （対目標比： %）	名 （対目標比： %）	名 （対目標比： %）
2	収益目標の達成（500万円）対前年 %	目標	1,240,000円	1,330,000円	1,340,000円	1,300,000円
		実績	円 （対目標比： %）	円 （対目標比： %）	円 （対目標比： %）	円 （対目標比： %）

III 年間スケジュール

※四半期ごとに実施状況を確認し、その結果を記載する。

未実施の場合は、次の四半期に記載する。計画欄には、期限等を具体的に記載する。

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 新規会員を増やし、会員数を維持する	①渉外活動の実施 ・近隣公民館へパンフレット配り ・依頼があれば、周辺の集会所等へ運動指導に行きPRする ・初めての方へ「よらいや」を見学、体験して頂く（随時歓迎、その都度対応する） ②利用者満足度の向上 ・利用者の満足度を上げ、口コミによる新規利用の輪を拡げる ・会員同士の親睦イベントを開催 ・快適に利用して頂けるようトレーニング機器のメンテナンスを行う（毎月中旬実施） ③休会、退会者へのフォローアップ ・休会者（ひと月休会している方）へ電話連絡し、近況確認行う ・退会者の理由を精査し、ご要望で変更可能である場合は対応する。 ④定期的な情報発信 ・ブログの更新（週1回更新）	①近隣公民館へパンフレット配り ①外部への運動指導（依頼受け調整可能なら実施） ①見学、体験希望者あれば随時対応する ②よらいやカフェに参加する（毎月1回開催） ②グランドゴルフ大会（6月上旬）（場所：グループホーム敷地内で開催） ③休会者へのフォローアップ（対象者へ随時実施） ④ブログの更新（毎週更新）	①博愛会感謝祭にて無料体験会開催 ②紹介キャンペーン実施（7～9月）（内容：会員による紹介で新規入会した場合、紹介者と新規入会者の会費をひと月無料にする） ②会員対象の納涼会を実施（7月中旬） ③休会者へ暑中見舞いを送る（7～8月）	②満足度調査アンケート実施（10月）アンケート結果公表（11月） ②既存会員へ年賀状の発送（12月） ②会員対象の忘年会を実施（12月上旬） ③休会者へ年賀状の発送（12月）	②紹介キャンペーン実施（12～2月）（内容：会員による紹介で新規入会した場合、紹介者と新規入会者の会費をひと月無料にする） ②正月福引イベント（1月中実施）（内容：1月利用された方に福引抽選券を配布。2月1日抽選発表）
		計画			

		・よらいや通信の発行（偶数月発行）	④よらいや通信の発行（4、6月）	④よらいや通信の発行（8月）	④よらいや通信の発行（10、12月）	④よらいや通信の発行（2月）
		実績				
2	指導員のスキルアップ	①外部研修への参加 ・運動指導に関連する内容や、健康運動指導士の資格更新に関連する研修があれば参加する	計画	①関連する研修があれば参加する		
			実績			

部門	⑦ みのかや運動処よらいや	氏名	田中 啓太
----	---------------	----	-------

(これまで)	(これから)
※各部署が計画した、平成31年度(令和元年度)事業計画の達成度等を記載してください。	これまでをどのように振り返り、各部署の令和2年度の事業計画を立案したのか、記載してください。
<p>新規利用者の獲得を目的として、渉外活動を実施した。近隣の公民館や他事業所、地域サロンへ出張講座の際には、パンフレットを直接配布した。パンフレットも新しく作り直した。以前の物よりコンパクトで見やすい仕上がりとなった。見学、体験は随時受け入れ対応した。会員数、対前年比100.4%増となった。達成度は92.4%でした。</p>	<p>引き続き渉外活動を実施していく。八幡次長、竹下部長にもパンフレット配布を手伝って頂く。出張講座については、勤務調整が出来る範囲で引き受ける。令和元年度も定期的に新規入会者はあったが、休会・退会もあり、毎月の利用会員数の伸びが著しかった為、2年度は、月平均100名の会員数の維持を目標にし、年間収益500万達成を目指す。</p>
<p>会員の口コミによる入会者の割合が多いことから、お友達紹介キャンペーン企画を実施した。紹介した会員にも特典を付けることで、満足度向上にも繋がっている。会員同士の親睦を深める目的として、納涼会や望年会を開催した。スタッフだけでは会の運営が大変なので、実行委員を会員の中から募り、運営を手伝って頂いた。その他、年1回の満足度調査アンケートを実施した。会員の意見、要望を聞き、サービスの質、内容の改善に繋げた。</p> <p>会員の利用継続目的のひとつとして、体力測定を実施した際には、結果を数値化して会員へ提示し、今後のモチベーションアップに繋げる取り組みをした。休会・退会された方へは、電話やハガキで近況を伺いながら、利用再開に繋がるよう取り組んだ。</p> <p>達成度は80%でした。</p> <p>会員及び外部の方に向けて情報発信を行った。</p> <p>「よらいや」を広く知っていただくことを目的に、法人ホームページにて、毎週のブログ更新と、年6回「よらいや通信」を発行した。運動風景や、お得な情報を発信することで、新規会員の呼び込み手段としても活用された。達成度は100%でした。</p>	<p>利用者の満足度を向上させることで、休会・退会者を減らし、口コミによる紹介で、新規利用者の増加に繋げる。紹介者に特典の付くキャンペーンの実施や、会員同士の親睦を深めるイベントを提供する。</p> <p>利用者からの意見や要望は真摯に受け取り、改善に努める。</p> <p>定期の測定会では、結果を数値化し個別に評価することで、今後の運動意欲に繋がるよう取り組みを行う。</p> <p>情報発信を行い、広域にわたって、よらいやを知って頂くよう取り組む。ホームページブログを毎週更新し、よらいや通信は年6回発行する。</p>

<p>他事業所へ施設見学に行き、サービス内容、接遇、広報戦略など参考になったことを取り入れていった。</p> <p>運動指導のスキルアップや資格更新に必要な単位取得の目的として、関連する研修への参加をする。学んだ知識を活かし、新たな運動プログラムメニューを提供することで、会員の満足度にも繋がった。達成度は100%でした。</p>	<p>よらいやと同じような施設があれば、見学に行き、参考になることは積極的に取り入れていく。</p> <p>運動指導のスキルアップに努める。関連する研修に参加し、その知識・経験をよらいや地域サロンで発揮させる。</p>
---	---

その他

第2四半期から、デイサービスの総合事業へ職員が向かうことになった為、午後から1人体制となった。ヘルプ要因も育児休暇に入り、シフトの都合で終日1人体制のこともある。その為、利用者ひとりひとりに接する時間が減少し、時間外での事務作業を余儀なくされている状態だ。今後事業を展開するには職員体制を見直す必要がある。

⑧令和2年度年間計画（あそしえA型事業）

I スローガン

自分らしく過ごせる時間づくり

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
利用率の安定と向上	登録人員 目標	10人	10人	10人	10人
	登録人員 実績	人 (対目標比： %)	人 (対目標比： %)	人 (対目標比： %)	人 (対目標比： %)

III 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	利用率の安定 と向上	安定した利用率を促すため 適時、面談等行い心理的援助を 行っていく。 必要に応じ求人活動を行う とともに事業所の周知徹底を する。	計画	①利用者との面談を月2回設定し行う。 ②相談支援事業所との連携 ③ハローワーク等就労支援に係る相談機関 との連携 ④県立養護学校の実習生の受け入れを行う。 ⑤事業所説明会へ参加する。	①・②・③前期計画を継 続・振返り。	①・②・③前期計画を継 続・振返り。	①・②・③前期計画を継 続・振返り。
			実績		①	①	
2	作業の効率化	利用者の特性に合わせた作業 場所の選定と流れの効率化	計画	①特性に合わせた、作業の構造化を行う。 ②利用者ごとの作業結果を検 証し、特性に合った作業 を適宜、勧奨する	①・②前期計画を継続・ 振返り。	①・②前期計画を継続・ 振返り。	①・②前期計画を継続・ 振返り。
			実績				
3	新規作業の開 拓	利用者の一般就労に向けて作 業の幅を広げる	計画	①近隣の企業や社会福祉法人に営業する。 ②利用者の特性と作業のマッチングを行う。	①・②前期計画を継続・ 振返り。	①・②前期計画を継続・ 振返り。	①・②前期計画を継続・ 振返り。
			実績				
4	人材の育成	利用者一人ひとりの特性に 合わせた、適切な支援を提供出 来る人材を育成する。	計画	① 研修等への参加を促し伝達研修を実施す る。 ② 利用者研修会を各職員が持ち回りで行 う。 (1か月に1回) ③ 職員会議を開催する。 (1か月に1回)	①・②・③前期計画を継 続。	①・②・③前期計画を継 続。	①・②・③前期計画を継 続。
			実績	④		①	

⑨令和2年度年間計画（あそしえB型事業）

I スローガン

自分らしく過ごせる時間づくり

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
利用率の安定と向上（登録人員）	目標	13人	13人	13人	13人
	実績	人 (対目標比：%)	人 (対目標比：%)	人 (対目標比：%)	人 (対目標比：%)

III 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	利用率の安定と向上	① 利用者の特性に合わせて作業の構造化を推進する ② 相談支援事業所や学校との連携を強化する ③ 利用者満足度の向上を目指す	計画	① 利用者の特性に合わせて作業の構造化を推進する。 ② 相談支援事業所、学校等との連携を強化する。 ③ 利用者の満足度向上と利用率確保のための土曜日営業日を継続する	①・②・③前期計画を継続・振返り	①・②・③前期計画を継続・振返り	①・②・③前期計画を継続・振返り
			実績		①	②	
2	工賃の向上	①工賃の基盤になる作業の開拓 ②利用者の特性に合わせた作業による作業量の向上	計画	①あかもくの加工 ②マルイでの売価チェック ③ルウでの充填作業 ④干し芋の製造、加工作業 ⑤野菜の加工作業 ⑥小麦の加工・計量作業	①あかもくの加工 ②マルイでの売価チェック ③ルウでの充填作業 ④干し芋の製造、加工作業 ⑤野菜の加工作業 ⑥小麦の加工・計量作業	①あかもくの加工 ②マルイでの売価チェック ③ルウでの充填作業 ④干し芋の製造、加工作業 ⑤野菜の加工作業 ⑥小麦の加工・計量作業	①あかもくの加工 ②マルイでの売価チェック ③ルウでの充填作業 ④干し芋の製造、加工作業 ⑤野菜の加工作業 ⑥小麦の加工・計量作業
			実績				
3	人材の育成	利用者一人ひとりの特性に合わせた、適切な支援を提供出来る人材を育成する。	計画	① 研修等への参加を促し伝達研修を実施する。 ② 職員会議を開催する。（1ヵ月に1回） ③ 個人目標の設定・振返りチェックシートを活用する。	①・②・③前期計画を継続・振返り	①・②・③前期計画を継続・振返り	①・②・③前期計画を継続・振返り
			実績		①		

部門	⑧⑨ あそしえ	氏名	福井 美佐絵
----	---------	----	--------

(これまで)	(これから)
<p>A型事業</p> <p>定期的な面接を行い、安定して作業が出来、を自信に繋げて頂けるように支援をした。個人差はあるが、作業内容の習得には問題はなく、安定して働き続けることに対しての心理的援助が必要不可欠となっている。作業の幅も広がり、パッド補充、衣類返しなど、清掃以外の介護士の雑務的作業を内容に組み込み作業を組み立てて来た。冬季には湿度調整の対策としてバスタオルを湿らせて干すことをし、インフルエンザ対策の一助を担った。</p>	<p>新規の A 型の利用者の利用希望もある中で、他の企業や社会福祉法人の清掃の委託を受け、外部にでて清掃業務が出来るように開拓をする。</p> <p>そのことで、利用者を一般就労に向けてステップアップの場にする事が出来るよう環境整備をする。</p>
<p>B型事業</p> <p>シャープの社員食堂の閉鎖で、安定して売り上げがあった業務が無くなった。そんな中、「伯耆のきのこ」でのきくらげの摘み取りや「海産物のきむらや」でのあかもくのカットに業務を組み替え、作業をすることが出来た。</p>	<p>利用者の工賃の向上につながるように「海産物のきむらや」の作業が工賃の基盤になるように環境整備など進める。</p> <p>他の作業でも利用者の特性に合わせた対応や支援を行い、やりがいをもって作業する事と工賃向上の両方を実現する。</p>

その他

⑩令和2年度事業計画（すまいるステーション ときぞう）

I スローガン

自分らしく安心して成長できる居場所

II 重要経営指標

重要経営指標			第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	事業収入の確保 （年間 3,652万円）	目標	放デイ	810万円	800万円	810万円	780万円
			児童発達	87万円	105万円	120万円	140万円
			合計	897万円	905万円	930万円	920万円
		実績	放デイ	0万円	0万円	0万円	0万円
			児童発達	0万円	0万円	0万円	0万円
			合計	0万円	0万円	0万円	0万円
2	利用人員の確保	目標	放デイ	16.0人	16.0人	16.0人	16.0人
			児童発達	1.5人	1.7人	2.2人	2.5人
			合計	17.5人	17.7人	18.2人	18.5人
		実績	放デイ	人	人	人	人
			児童発達	人	人	人	人
			合計	人	人	人	人

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	利用率の維持、向上	計画	①モニタリング等による支援内容の見直し（月1回） ②家族との会話や連絡票の交換等のほか、学校への迎えや学校公開等に積極的に参加するなどして、関係者との情報の共有化を行う。 ③相談員等との連携を密にし、信頼していただくようにする。	①、②、③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①、②、③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①、②、③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	
		実績			①		
2	利用満足度の	①社会参加の準備が出来る支	計画	①公共の施設や公共交通機関	① 長期休み中、グループ分	①アクアスロンに参加する。公	① 長期休み中、チーム分けを

	向上	援の充実 ② 新施設環境の充実 (PDCA サイクルによる改善) ③利用者主体で行える他事業者との交流会の開催 (年10回) ④満足度アンケート調査による業務改善(年1回) ⑤自己評価による業務改善(年1回) ⑥利用者の家族との交流会及び意見交換会の開催(年1回) ⑦各災害訓練の実施		を使用し社会でのルールを学んでいく。また地域の体育館施設を使用して楽しく体力作りが出来る活動の場を提供する。 ②利用者の適性にあわせた施設環境に改善する。 ③博愛苑・1回、他事業者・1回の交流会を実施する。 ⑦実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。	けをして、外出の計画など利用者が出来る事を考え、実行する。 ②実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。 ③博愛苑1回、他事業者2回の交流会を実施する。 ⑦実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。	共の施設や公共交通機関を使用し社会でのルールを学んでいく。また地域の体育館施設を使用して楽しく体力作りが出来る活動の場を提供する。 ②実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。 ③博愛苑1回、他事業者2回の交流会を実施。 ④放課後等デイサービス事業・児童発達支援事業の家族評価表の実施。 ⑤自己評価からの業務改善。 ⑥家族会・意見交換会の実施 ⑦実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。	して、外出の計画や公共交通機関を利用しているなかで、時間や場所によって社会性を学べる環境を提供していく。 ②実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。 ③博愛苑1回、他事業者1回の交流会を実施。 ⑦実施状況を踏まえ随時その計画を修正する。
		実績					
3	人材育成の取組み	①職員に年間目標を設定する。 ②研修への積極的参加及び伝達研修による能力の向上 ③チーム力の向上	①四半期ごとに設定した個人目標の達成度を評価する。 ②必要な研修を積極的に受講するとともに、効率的に伝達研修を実施する。 職員が交代で講師をして、所内研修を開催する。 ③職員会議、朝ミーティング等で、職員から発言する場をもうけ、職員の考えや思いを同じ方向性を共有し支援していく。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	
		実績		①			

部門	⑩ すまいるステーション ときぞう	氏名	福井 大輔
----	-------------------	----	-------

(これまで)	(これから)
長期休暇や土曜日等に公共交通機関を利用して社会性を身につける支援を行った。	今後も継続して公共交通機関を利用し社会経験を積み重ねていく
季節ごとの行事を実際に見たり感じたり作ったり食べたりすることが出来る体験を行った。	今後も見学や体験の行事を積極的企画して利用者が主体で行えるよう支援していく。
公園や体育館、運動場を利用した活動を行った。散歩をすることで体力をつけ、また、地域の方に会うと挨拶ができるよう支援を行った。	公園や体育館、運動場を利用して体力をつけると共に様々なルールを守ることができるよう支援していく。また、利用者から挨拶が出来るようになるよう支援していく。
高齢者の方々と行事を通して交流を持ちながら支援を行った。	今後も高齢者の方との交流をしていき、楽しみを共有できる支援を行っていく。
発達に特性があっても地域で安心して過ごせるように、個性に合わせた療育支援を行い、成長を促していく環境を提供した。	施設内での療育支援を充実させていき、利用者の生活に必要な力をつけることが出来るよう支援をしていく。

その他

①令和2年度事業計画（りんく）

I スローガン

利用者が、住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう努める。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
利用者のそれぞれの状況に即した情報を提供したり助言等をし、相談支援の質を確保のため、担当件数を適切に管理する。	目標	85件	85件	85件	85件
	実績	件 (対目標比： %)	件 (対目標比： %)	件 (対目標比： %)	件 (対目標比： %)

III 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 サービスの質の向上	利用事業所等各関係機関と連携し、真の自立に向けて必要な福祉サービスの利用ができるよう支援する。	計画	① 関係機関との迅速な連携、情報共有の継続	①前期計画を継続	①前期計画を継続	①前期計画を継続
		実績				
	質の高い相談支援を提供するため、研修等に積極的に参加するとともに、自己研鑽に努める。	計画	① 相談支援の充実を図るため連絡会参加（毎月） ② 相談支援専門員協会の勉強会（不定期）等の研修への参加	第1四半期の計画を継続	第1四半期の計画を継続	第1四半期の計画を継続
		実績				

部門	⑪ りんく	氏名	今岡 史
----	-------	----	------

(これまで)	(これから)
<p>契約件数は、サービスの質を現状維持するために15件程度までは増やし、関係機関と顔の見える関係づくりを行った。</p>	<p>1人でも多くの利用者に関わり、サービスを提供するため、これまでのモニタリング等に係る事務作業の処理方法を見直し、そのことで生まれた時間を、これまで関わりのある利用者への対人援助や新規利用者の受入れに活用する。</p>
<p>必須である書類は確実に残していき、利用者とのやり取り、行政とのやり取りも明確に残してきた。</p>	
<p>人材育成については、困難事例等に迅速・的確に対応できる職員の育成に努め、各研修も参加し研鑽を重ねてきた。</p>	<p>利用者の真の自立に向けたサービスを提供するため、研修に積極的に参加するなど、自己研鑽に努めるとともに、適切な助言や情報などを提供する。</p>

その他

I スローガン

「笑顔で、働きやすい職場づくり」を推進する。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)	
1	人材確保に向けた積極的な行動 (12回) (就職フェア・学校関係等)	目標	3回	4回	2回	3回
		実績	(対目標比: %)	(対目標比: %)	(対目標比: %)	(対目標比: %)
2	積極的な広報活動の推進 (14回) (広報誌・ホームページ更新・フェスブックでの情報発信他)	目標	30回	30回	30回	30回
		実績	(対目標比: %)	(対目標比: %)	(対目標比: %)	(対目標比: %)
3	人材育成の充実にに向けた各種研修の実施 (20回) 制度の見直し・計画策定	目標	5回	5回	5回	5回
		実績	(対目標比: %)	(対目標比: %)	(対目標比: %)	(対目標比: %)

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)
1 働きやすい職場 の環境作り	①適切な人材確保に向けた取組 ②適正な人事考課の実施 ③施設整備の推進 ④鳥取県男女共同参画推進企業認定取得・鳥取県家庭教育推進協力企業認定取得 ⑤鳥取県介護人材育成事業者認定評価取得	計画 ①ハローワークへの情報提供 ①就労斡旋に向けた学校訪問、就職フェアへの参加 ②人事考課の適切な実施及び基準の見直し ③施設の修理箇所の点検及び優先修理の実施 ④⑤各認定取得に向けた事務の実施	②人事考課による賞与支給	②人事考課による賞与支給	②人事考課による昇給決定
		実績			
2 法人の健全経営 の推進	①制度改正等に伴う適正な運営 ②法人の課題解決に向けた対応策の策定 ③法人内監査の実施 (現金管	計画 ①評議員会、理事会の開催 ②管理者会議、経営会の開催 ③法人内監査の適正な実施 ④ご意見、苦情の都度対応	③法人内監査実施	①理事会開催 ③法人内監査実施	①評議員会、理事会の開催 ③法人内監査実施 ④苦情解決処理第三者委員会の実施

		理・小口現金・個人情報等) ④利用者、家族からの苦情処理の透明化					
			実績				
3	広報活動の充実	①ホームページの充実 ②広報誌の発行(6月・9月・12月・3月) ③各イベントでの地域交流	計画	①ホームページ、ブログの更新による広報活動(通年) ②6月広報誌発行 ③イベント開催に向けて年間計画策定	②9月号広報誌発行 ③感謝祭	②12月号広報誌発行 ③敬老会の開催	②3月号広報誌発行
			実績				
4	人材育成	①各種法人内研修の計画的開催 ②制度改正に伴う研修の開催 ③研修制度の見直し・計画策定	計画	①食中毒・接遇・熱中症研修 ②制度改正等に即した都度参加 ③研修制度の見直し・計画策定	①認知症対応・コンプライアンス・リスクマネジメント・リーダー・メンタルヘルス研修	①感染予防、口腔・認知症対応・救急蘇生・腰痛予防研修	①高齢者に多い疾患、看取り・虐待研修
			実績				

部門	⑫ 総務部	氏名	岩崎 豪
----	-------	----	------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、令和元年度（平成31年度）事業計画の達成度等を記載してください。</p>	<p>これまでをどのように踏まえ、各部署の令和2年度の事業計画を立案したのか、記載してください。</p>
<p>1 働きやすい職場の環境づくり</p> <p>適正な人材確保に重点的に取り組み、職場環境の適正化を図りました。</p> <p>ハローワークと連携を図りながら、就職フェアへの参加や個別の企業説明会を開催するなど人材確保に務め、法人ホームページ、福祉人材ページ等インターネットを活用した情報発信を行った。また、介護助手等60歳以上の働き方の一つとして取り組み、一定の成果がありました。</p> <p>人事考課は、賞与査定に併せて、面談、基礎評価、職能評価を活用し、適切に行うとともに各職員に結果説明をする等透明性の確保に努めました。</p> <p>職員の育成を目的とした研修を年間計画のもとに実施し、コーチング・ティーチング研修を全体研修に組み入れ人材育成へ取り組みましたが、研修が増えることが職員への新たな負担となる部分もありました。</p> <p>時期的に、離職に伴う補充が思うように出来ずに、夜勤が増える等働き易い職場となっていない状況がありました。</p> <p>施設整備は、すまいるステーションときぞうの新施設を国県の補助金を活用して、新たに建設しました。達成度は75%でした。</p>	<p>1 働きやすい職場の環境づくり</p> <p>働きやすい職場環境づくりを第一に掲げました。</p> <p>令和2年度も人材不足によるケア、支援の低下を招かないように、適正な人材を確保出来るように重点的に取り組みます。</p> <p>また、職員のモチベーションアップへ繋がるよう適正な人事考課を実施することにより、さらに働きやすい職場づくりを目指します。</p> <p>職員研修については、職員の負担にならないよう配慮しながら、引き続き積極的に実施することとし、全体的に見直しを検討し、計画を策定します。</p> <p>さらに、離職防止に向けた新人職員への指導、研修のあり方について見直しつつ、職場環境、雰囲気づくりを目指します。</p> <p>また、鳥取県男女共同参画推進企業認定取得、鳥取県家庭教育推進協力企業認定取得及び鳥取県介護人材育成事業者認定評価取得を目指します。</p> <p>施設整備については、適宜必要な対応を実施するとともに、外壁塗装、居室内壁の貼り替え等の抜本的な老朽化対策等を検討します。</p>
<p>2 法人機能の健全経営の推進</p> <p>法人機能強化に向けた取り組みとして、制度改正に伴う的確な対応ができるように、理事会、評議員会の開催を適宜実施しました。</p> <p>管理者会議で協議した内容や課題についても、全職員に伝わるように会議録を通じて共有化し、風通しの良い法人経営を進めました。</p> <p>財務の透明性を高めるために監事による中間監査を実施するとともに、法人の業務の適正を確保するために抜き打ちで、小口現金の管理状況の内部監査を実</p>	<p>2 法人機能の健全経営の推進</p> <p>法人の健全経営を確保するために、理事会、評議員会の定期開催及び経営会議、管理者会議を開催し、課題解決に向けて取り組むとともに情報の共有化を図ります。</p> <p>また、業務の適正を確保することを目的として法人内監査を実施します。</p> <p>利用者様、家族様からのご意見ご要望に対しても迅速に対応し、苦情解決処理第三者委員の意見も伺いながら健全な経営の推進を図ります。</p>

施しました。監査内容を公表し不備については、改善を求めました。

達成率は80%でした。

3 広報活動の充実

情報発信による見える化、情報共有を目的として、法人ホームページを積極的に更新することに取り組みました。

また、見る側がほしい情報や、法人の事業所ごとの情報をブログの他に新たにフェイスブックも活用して、タイムリーに発信しました。

求人情報についても、法人ホームページ、福祉人材ページ等インターネットを活用した情報発信を行い、常に新しい情報を提供することに努めました。

広報紙も3か月おきに発行し、家族様、地域の皆様にも各事業所の情報を発信することが出来ました。

達成度は80%でした。

4 人材育成

職員の育成を目的とした研修を年間計画のもとに全体向けの教養と、専門性のある項目に分け各研修を実施しました。

全職員に必要な項目は、全ての職員が受講できるような伝達研修を実施し、浸透を図りました。また、専門的な研修については、職員のスキルアップと、指示できる職員の育成を目的に研修を行いました。

個別研修として、管理職、主任を中心とした中核となる職員に、エルダー・メンター研修を半年間で実施する等人材育成へ取り組みましたが、研修が増えることが職員への新たな負担となる部分もありました。

達成率70%でした

3 広報活動の充実

広報活動の更なる充実による内外へのアピールを目指して、見える化を推進していきます。

法人の方針、取組等を広く情報提供するためにホームページのさらなる活用を図るとともに各部署からは、ブログやフェイスブックを活用した細やかな情報発信に努めます。

広報紙も定期的に発行し、地域の皆様、ご利用者・ご家族の皆様に情報提供を継続して行います。

4 人材育成

職員の人材育成を目的として年間計画のもとに全体向けと、専門性のある項目に分けて職員研修を実施し、職員の更なるスキルアップを図ります。

また、職員研修については、職員の負担にならないよう配慮しながら、引き続き積極的に実施することとし、キャリアパス等職員のスキルアップに向けてわかりやすい制度を含め全体的に見直しを検討します。

さらに、新人職員への指導、研修のあり方について見直しを行い、離職防止を目指します。

職員自らテーマを選び希望し、積極的に研修に参加できる環境づくりに努めます。

その他